

## ベトナム製靴業の現状

中川 良一

## ＜靴の輸出、世界第2位＞

ベトナムの「皮革・靴・バッグ協会」(略称：Lefaso)によりますと、2017年の靴の世界生産量は230億足で、上位生産国は中国(130億足)、インド(22億足)、ベトナム(11億足)、インドネシア(10億足)、ブラジル(8億7,700万足)の順となっています。

ベトナムは靴生産国3位ですが、輸出額では中国に次ぐ2位となっています。ベトナムの2018年の靴・バッグの輸出額は、前年と比べて8.3%増の約200億米ドルで、ベトナム輸出品目のトップ10に入っています。最大の輸出先は米国(65億米ドル)、続いてEU(50億米ドル)、中国、日本、韓国などとなっており、世界の100か国に輸出されています。

ベトナム産靴の平均輸出価格は15米ドル/足で、世界の平均輸出価格の9.81米ドル/足を上回っており、ベトナム産の靴は品質的に一定の評価を受けています。

ベトナム産靴の輸出額の約80%はベトナムに進出した外資企業、特に台湾、韓国の現地企業によるものです。これらの企業は長年にわたりアディダス、ナイキ、プーマ等の有名ブランド運動靴メーカーのOEM生産の経験と実績を有しており、ベトナムの低廉な賃金に着目して1990年代から積極的にベトナムに進出してきました。

製靴分野における代表的な台湾企業は、Pou Chen、Pou Yuen、Feng Tay するなど、

韓国企業は、Tae Kwang、Chang Shin、Hwaseungなどが知られており、台湾 Pou Chen 社のベトナム靴工場(複数あり)では総計約20万人の労働者を雇用しています。

2012年からベトナムはアディダスの靴生産拠点になり、ベトナムでの生産量が増加しつつあります。2017年のアディダスの全世界靴生産量の4億300万足のうち、44%はベトナムで生産されたものです。一方で、中国での生産が徐々に減少し、2017年にはアディダスの中国生産量のシェアは19%に減少しました。

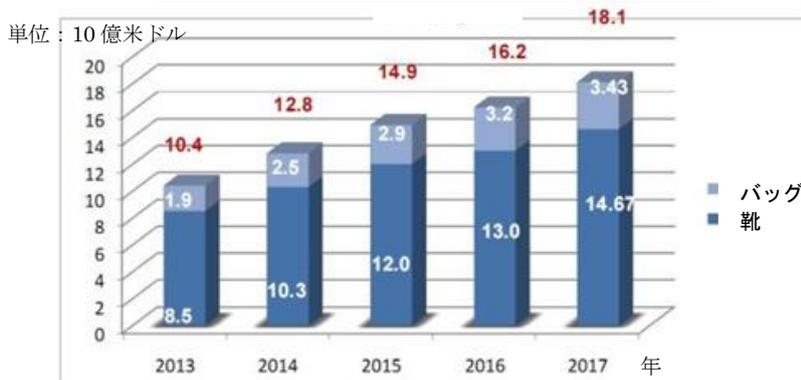
## ＜今後のベトナム産靴の動向＞

中国・米国の貿易摩擦激化を背景に製靴業が引き続きベトナムにシフトすると予測されています。ベトナムの「皮革・靴・バッグ協会」の予測によると、2019年のベトナムの靴の輸出額は、2018年に比べて約10%増加する見込みです。

一方で、ベトナム国内においては賃金が徐々に上がっていますので、製靴メーカーは賃金が比較的低いメコンデルタなどの地方にシフトしつつあります。

ベトナムの大手製靴メーカーは、タイビン投資株式会社(TBSグループ)、ドンフン工業株式会社が挙げられます。

【ベトナムの靴及びバッグの輸出額の推移】



出所：Lefaso 資料